



交流から滞在、そして定住へ

ちよこつと匹見を体験したい方は...

◇農家民泊...匹見町には、3軒の農家民泊があります。



民泊「三四四」

《体験内容》
ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、
山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験な
ど

■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町道川イ214
Tel/Fax. 0856-58-0020

◇田舎体験・ボランティア

【田舎体験】
匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな
自然を生かした体験をはじめ、「田舎料
理体験」や「ものづくり体験」、「収穫
体験」「歴史・文化体験」などを楽しむ
ことができます。



わさび収穫体験

【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内
の共同作業やイベント開催などが年々
困難になっています。そこで、地域外
の方にボランティア会員登録をしてい
ただき、軽度の作業に携わってもらう
ことで、田舎と都市との交流を図って
います。



ブルーベリー摘み取り作業



農家民泊「内谷とちの郷」

《体験内容》
わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体
験（こんにやく、わさびの醤油漬けなど）、もち
つきなど

■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町石谷口561
Tel/Fax. 0856-56-0589

農家民泊「長尾原のへや」

《体験内容》
農作業体験（稲刈り、牛の世話など）、苔玉作
り、農産加工品作り（漬け物、こんにやく、
ようかん、ジャムなど）

■宿泊および調理体験料 6,000円
■益田市匹見町澄川イ789
Tel/Fax. 0856-56-0471

もっと匹見に滞在したい方は...

田舎暮らしの体験や、農業またはその他の産業に
関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能
な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎
暮らし体験施設」を開設しています。



平成25年8月現在

施設区分	戸数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(0)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。
《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があり
ます。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申
込書」を下記までご提出下さい。
(詳しくは、益田市のホームページをご確認いただき、
下記までお問い合わせ下さい。)

《使用者の条件》
(1)益田市への移住を強
く希望し、田舎暮らし
を体験しようとする人
(2)農業その他の産業
に関する技術や経営ノ
ウハウウの習得のため研
修を受けようとする人
《使用期間》
1カ月以上3年以内
《使用料》

匹見への定住をお考えの方は...

◇就業支援

益田市外から移住し、農林水産業へ就業することを目的
として産業体験を行う人に、「益田市農林水産業就業支援助
成金」制度による支援策で、就業と定住を支援しています。

◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

◇◇◇空き家に関する各種事業◇◇◇

◇空き家バンク制度◇

益田市は、空き家の有効活用とUターン希望者の定住
促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設してまいります。
この制度は、空き家を買値あるいは売却してもよいと考
える所有者と、Uターン希望者にそれぞれ登録してもら
い、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行
うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。
匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅に
してもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしや
いましたら、ご連絡下さい。

◇益田市空き家改修事業◇

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、そ
の住宅を改修した際の経費の2分の1以内(上限50万円)を
空き家の購入者または入居者(Uターン者に限る)に補助
します。ただし、経費の額が50万円以上であるものに限
ります。

◎ 定住・Uターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域づくり推進課
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0305 (代) FAX 0856-56-0362
ホームページ http://www.town.hikimi.shimane.jp/

おかえり

特集

- ◇匹見で暮らす。働く。
- ◇交流から滞在、そして定住へ
 - 農家民泊
 - 田舎体験・ボランティア
 - 田舎暮らし体験施設
 - 就業支援・住まい
 - 空き家に関する各種事業

ひきみとつながる。
Uターン情報誌2013. 8月



七夕会では子どもたちが短冊に願い事を書いて笹に飾りました。＝益田市立匹見保育所＝

匹見暮らし。働く。

「圭太先生」と慕われ、子どもたちのアイドル的存在になっている足立圭太さん(20)。

子どもが好きで、保育士だった祖母と母の姿を見て育った足立さんは、高校2年の終わりに保育士を志し、大学に進学。教育実習先は迷わず、地元の益田市立匹見保育所を選んだ。

約2週間に及んだ教育実習は、「職場の雰囲気も良く、先輩方

が温かく迎えてくださり、皆さんと一緒に故郷で仕事をしたいという思いが高まったという。

故郷で夢を実現

その後、保育士免許を取得した足立さんは、平成25年4月から匹見保育所で勤務している。念願の地元就職を果たしたのだ。主な仕事は、2〜3歳児の副

担任として、食事や排せつ、睡眠といった基本的な生活習慣の世話やつけ、一緒に遊ぶことで子どもたちに社会性を身につ



足立さんと子どもたち

大好きな子どもたちに囲まれ 先輩の姿に学びながら 理想の保育士を目指す

けさせることなどだ。

教えた子どもが、一人で逆立ちや鉄棒の前回りができるようになったとき、得意の漫画を描いて、子どもたちに「すごい!」と感心されたとき。教育実習の際に知り合った子どもたちが、小学校に入学してからも、遊びに来てくれるとき。――「子どもたちが喜ぶ姿を見るときが、何より嬉しい瞬間」だという。

大先輩の存在

保育士への道を後押しし、夢の実現を何より喜んでくれたのは、祖母の渡辺敦子さん(75)だ。「高校生の頃、“保育士になりたい”と聞いたときはびっくりしましたが、昔から年下の子たち

の面倒見が良く、傍から見ても本当に子どもが好きだったので、“好きな道へ進んだらいいじゃない”と応援しました。私たちの跡を継いでくれて、本当に幸せです」と喜びに溢れている。

足立さんは仕事が終わってから、こまめに渡辺さんを訪ね、

保育の相談や、音楽や絵など共通する趣味の話をするという。

保育士をする上で一番大切なことは、「子どもたちとの信頼関係をつくること」だと渡辺さん。

ある日、足立さんが子どもたちを叱ったことがあった。滅多に見ない先生の姿に子どもたちはびっくりしたに違いない。子どもたちはすぐに言うことを聞いた。足立さんは「なぜ叱ったのか」説明すると、その後、いつものように子どもたちが懐いてきてくれたという。この話を聞いた渡辺さんは、「子どもたちと信頼関係ができて良かったね」と声をかけたという。

「大先輩」からもらう励ましの言葉は、足立さんの大きな原動力になっている。

若きエース

匹見保育所では、初の男性保育士でもある足立さん。先輩からは、「若いからパワーをもらっています」「子どもたちと一緒に園庭を走り回ったりしてくれるので、子どもたちが生き生きしています」と大絶賛。

齋藤芳文所長も、「排せつの処理も苦にせずに取り組み、1年目にしてプロ意識があります。本当によくやってくれます」と、「若きエース」の存在を頼もしく思っている。

「保育士は、楽しくて良い仕事です」。そう、きっぱり言い切る足立さん。「先生方から学び、子どもたちの言動を理解できる保育士になりたい」と力強く抱負を語ってくれた。



サツマイモ畑で

益田市匹見町でわさび栽培の研修を受けているテ・オリヴェイラ・アドリアーノ・カルドゾさん(34)。

生まれも育ちもブラジルだが、縁あって16年前に来日した。屈託のない笑顔が印象的で、皆から「アドちゃん」「アド君」と親しまれている。

広島で中常美香さん(28)と出会い、結婚。子どもが生まれ、田舎で子育てがしたいと思っていたところ、友人が家族で匹見町へ移住。何度か匹見へ遊びに来るうち、自然の豊かさや穏やか

匹見で子育て真の最中 家族と一緒に 世界一のわさびを目指す

な町の雰囲気が気に入る、タイミングよく空き家が見つかったため、平成23年6月に家族で移住した。

世界一のわさびを 作りたい

アドリアーノさんは、(公財)ふるさと島根定住財団の紹介で、林業関係の会社に就職。仕事は

好きだったが、家族と過ごす時間が少ないことにジレンマを感じていた。「家族と一緒に、自然の中でできる仕事があれば」。

そんな思いを巡らせていたとき、わさび栽培をしている友人から圃場を見せてもらい、失敗談も含めて話を聞くうち、わさび栽培に魅力を感じ、平成24年6月から産業体験(※注)を、その1年後から研修(同)を行っている。

指導するのは、渡辺誠さん(78)と房代さん(76)だ。町内でも有数の谷わさび圃場を持ち、夫婦で良質のわさびを栽培、出荷してきた。しかし数年前に誠さんは体調を崩し、作業量を減らさざるを得なかった。そんな渡辺さん夫婦にとって、アドリアーノさんは、貴重な後継者だ。広大な圃場を貸与し、蓄積したノウハウを惜しみなく教える。圃場の掃除や種蒔き、苗植え、収穫」と、研修は多岐にわたる。

「わさび栽培に取り組む若者が増えているので、良いわさびを作るように」とエールを送っている。



(左から) 美香さん、渡辺誠さん、アドリアーノさん

病虫害や災害のことなど不安は尽きないが、「今は育てることが楽しく、つらい作業も苦にならない」。「趣味は子育て」と言ってはばからないアドリアーノさんにとって、「家族との時間が持てることに感謝する毎日」だ。1年後には、生産者として独立。谷わさびの収穫も控えており、「世界一のわさびを作りたい」と、夢は大きい。

理想の田舎暮らし 向かって

子育てに忙しかった美香さんも、保育所に子どもたちを預けるようになってから、時間に余裕ができた。

人と出会うことが好きで、過去にパーカッション(打楽器)

教室に通っていた美香さんは、匹見に縁のある女性を中心に活動する和太鼓グループ「匹見太鼓喜楽組」に平成25年7月、入団した。指導者で和太鼓奏者の今福優さんの力強いバチさばき、人を感動させる魅力にとりつかれたという。太鼓は、打楽器とリズムも道具も違い、「ちんぷんかんぷん」だと言うが、少しでも先輩団員の背中に近づけるようになりたいと考えている。

「最初の2年は時間的にゆとりがありませんでしたが、移住3年目にしてようやく理想とする田舎暮らしへのスタート地点に立てた気がします」と美香さん。今後は、「子どもたちに自然と触れ合う機会を増やしたり、地域の皆さんから食文化について学び、生きる糧にしたい」と話している。

(注)：益田市では市外からの移住者で、農林水産業へ就業することを目的として産業体験を行う人と、産業体験期間中に就業計画を作成し、就業計画に基づく研修期間にある人などに、「益田市農林水産業就業支援助成金制度」で、就業と定住を支援している。



(左から) 太陽君、満月君、アドリアーノさん、風詩ちゃん、美香さん